

令和8年2月25日 社会福祉法人こどものいえ双葉こども園（57-2818） 岩崎 愛実

日に日に厳しい寒さも和らぎ、春の陽気を感じられるようになりました。園内に差し込む柔らかな陽ざしが今年度の残り少ない時間を包み込んでいてくれるようです。1年間で子どもたちは、いろいろな体験をしながら心も身体も大きくなりました。春はそれを改めて感じる嬉しい季節です。今年度もこども園にご支援ご協力を頂き本当にありがとうございました。

【保育目標】

- 進学や進級に喜びと期待を持ち、友だちと楽しく活動する
- 外あそびや散歩先で春の訪れを楽しみながら見つける
- ひな祭りにまつわる食べ物の由来を知り、関心を持つ
- 会食を通して、感謝の気持ちと楽しい食事をする

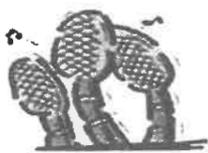
【今月の予定】

3日（火） ひな祭り会・行事食	17日（火） 体操教室（5歳児）
4日（水） 避難訓練	18日（水） 誕生会
5日（木） 身体測定（5・4・3歳児）	23日（月） 不審者訓練
6日（金） 身体測定（2・1・0歳児）	27日（金） 布団持ち帰り
10日（火） 交通安全指導	3/28~4/4まで 1号認定園児 年度末休暇
13日（金） 卒園式	

【今月の歌】

- ・みんなともだち
- ・ともだちになるために
- ・はるがきた
- ・ずくほんじょ（わらべうた）

「ずくほんじょ」とは
佐賀県の方で
「つくし」のことです。



—4月の主な予定—
決まり次第、お知らせいたします。

新しいお友だちを
紹介します。
もも組（0歳児）

てらお はな
寺尾 華さん

（3/10~入園）



♪今月の歌 わらべうた 「ずくほんじょ」
ずくほんじょ ずくほんじょ
ずっきんかぶって でてこらさい

- ①「ずくほんじょ ずくほんじょ～ ずっきんかぶって」と歌いながら、両手で頭の上にずきんを作るように動かす
 - ②「でてこらさい」の最後で、わきの下に手を入れて体を持ち上げる
- ★体を持ち上げるときに、「によきっ」「すっぽーん！」と音を付けてずくほんじょ（つくし）をぬくと楽しいです。

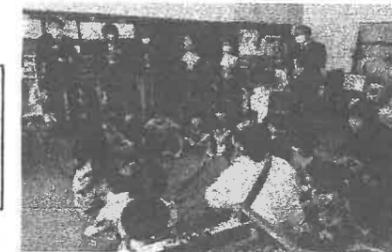
双葉こども園、園だより「ふたば」では、毎月の行事、歌やお知らせの他に子どもたちの今、体験している活動、園内の様子を発信しています。今月は、公開保育「玉ねぎ染め」、野菜の収穫の様子（5歳児）です。

公開保育
玉ねぎ染め

こども園での「遊び」は「学び」に繋がっています。小学校への架け橋としてこども園の活動を就学先の学校へ見ていただく目的で小学校の校長先生や教育委員会の方を招いて行った公開保育では、栽培・収穫した玉ねぎの皮を使って玉ねぎ染めをしました。布を染める為に、染め液の色を濃く出すにはどうしたらいいのかを考え『皮を多く入れる』『煮る時間を長くする』という様々な意見が出てきました。実際に試し、試験管を使って色の濃さを見比べると「色が濃くなって！」と見事予想的中！完成した染め液を布に定着させるためにミョウバンを入れ更に煮詰めると玉ねぎ染めの完成です。輪ゴムを解く工程で「綺麗な模様だ！」「こんな模様になるんだ！」と目を輝かせ作品を見せ合う子ども達です。



サークルタイム
感じたことを
伝え合う



綺麗な色と模様



匂いや感触、予測や想像
五感をフルに使った
公開保育となりました

野菜の収穫
自分で育てた野菜の味

大雪の後でも、子ども達が協力してかけた雪除けシートのおかげで、葉物野菜も青々としており「ほうれん草元気だった！アスパラ菜も花咲いているよ！」と大喜び！2畝分の大根とほうれん草、アスパラ菜、小さな人参を大収穫！「やったー！まだ収穫できる！」と野菜の生長と収穫を喜び、収穫した野菜は給食に入れてもらい全園児でとれたた野菜の味を味わっています。



みんなに美味しく
食べてほしいな！



野菜元気だ！



たくさん収穫できました！
3月には焚火で収穫祭を
企画中です！お楽しみに！



— 小学校との連携の大切さと、0歳からの学び —

先日、記念すべき第1回目の公開保育「自然からの学び～玉ねぎ染め～」を実施し、ゆり組（5歳児）が就学する小学校の先生方をはじめ佐渡市教育委員会や地域の皆さまなどにご参加いただきました。園での保育教諭の教育実践や子どもたちの姿を実際に見ていただくことで、双葉こども園が大切にしている幼児教育の考え方や、日々の保育の積み重ねがどのように子どもたちの育ちにつながっているのかを共有できたことは、私たちにとって大きな意味がありました。

◆「幼児教育は3歳から」ではなく、0歳から始まっている

世の中では今なお、「幼児教育は3歳から」という認識が根深く残っています。しかし双葉こども園では、0歳児も一人の“人間”として、学びの主体であるという考えを大切にしています。

乳児期の子どもは、言葉を読まないから学んでいないわけではありません。

抱かれる安心感、語りかけられる喜び、探索する自由、他者との関わり-そのすべてが、人として生きていくための基盤となる「学び」そのものです。

0歳からの関わりは、単なる“お世話”ではなく、人格の土台を育てる教育的営みであり、ここにこそ園の専門性が発揮されます。

◆「預かる」から「育ちを支える幼児教育」へ

かつての園は「家庭の代わりに預かる場所」というイメージが強くなりました。しかし今、社会が求めているのは、子どもの育ちを科学的に理解し、学びを保障する幼児教育の専門機関です。

双葉こども園では、生活・遊び・人との関わりを通して、子どもが自ら育つ力を最大限に引き出すことを目指しています。その姿勢は0歳から5歳まで一貫しており、年齢によって教育の質が変わることはありません。

◆公開保育がつなぐ、園と小学校の“共通理解”

今回の公開保育「自然からの学び～玉ねぎ染め～」では、「子どもたちが自分たちで収穫した玉ねぎを食べること以外でどんなことに使えるか、興味を起点にサークルタイムで意見を出し合い、保護者を巻き込み、友だちと協力し、結果を予測しながら自分の考えを言葉にしていく姿、保育教諭は決して正解を伝えず、体験から学ぶ姿などを見ていただきました。

参加した小学校の先生方からは、

- 「保育教諭が子どもたちにかける声掛けがとても肯定的で学びがあった」
- 「子ども同士で考え合う姿が印象的だった」
- 「自分の気持ちを言葉で伝えようとする力が育っている」
- 「遊びの中に学びの芽がたくさんあることを実感した」

これは、幼児教育と小学校教育が“別物”ではなく、連続した学びのプロセスであるという理解を共有できた証でもあります。

◆「学びに向かう力」を育てることが、小学校への確かな接続になる

小学校の学びは、文字や数の習得だけではありません。その前提として必要なのは、

- 人の話を聞く姿勢
 - 自分の思いを表現する力
 - 友だちと協力し、折り合いをつける力
 - 失敗しても挑戦しようとする気持ち
- といった、学びの土台となる力です。

これらは、幼児期の生活や遊びの中でこそ育つものです。双葉こども園が大切にしている「主体的・対話的な遊び」は、まさにこの力を育む最良の学びの場です。

◆0歳からの学びを、地域とともに育てていく

子どもたちの育ちは、園だけでつくるものではありません。

家庭、地域、小学校——そのすべてがつながり、子どもを中心にした“学びの循環”が生まれることで、子どもたちの育ちはより豊かになります。双葉こども園は、これからも公開保育や地域との交流を大切にしながら、

0歳からの学びを丁寧に積み重ねる、地域に関わられた幼児教育の拠点でありたいと考えています。活動の際には、皆さまにご協力をお願いすることもあるかと思いますが、子どもたちの学びを一緒に支えていただけたら嬉しく思います。



どんな色になるのかな（考察）



サークルタイム（こども会議）の様子